

# 太田川のふるさと整備構想(素案)

The Ohta Basin Improvement Concept (Draft)

研究第三部 主任研究員 川 端 郁 子  
研究所 所 長 小 池 達 男

The Ohta, an important river in the Chugoku region, is running through the western part of Hiroshima prefecture. The city of Hiroshima, with a population of over 1.1 million, is located on its delta, and rich natural, historical and cultural resources remain upstream and midstream in the river's basin. These resources can be used for recreation, education and various types of interchanges.

This concept shows the basic ideas for stimulating various types of interchanges for the upstream and downstream directions linked by the Ohta river, re-acknowledging the relationships between people and this river, and connecting these to regional development; it also shows the orientation of measures and a system for following up on the concept.

## 1. はじめに

太田川は、広島県西部を流域とする中国地方有数の河川である。中国山地の冠山(1,339m)にその源を発し瀬戸内海まで流れ下るな

か、沿川の地域と深く係わり風土を形成してきた。河口デルタの広島市が百万都市に発展する一方、上中流域には豊かな自然や歴史・文化が数多く残っている。

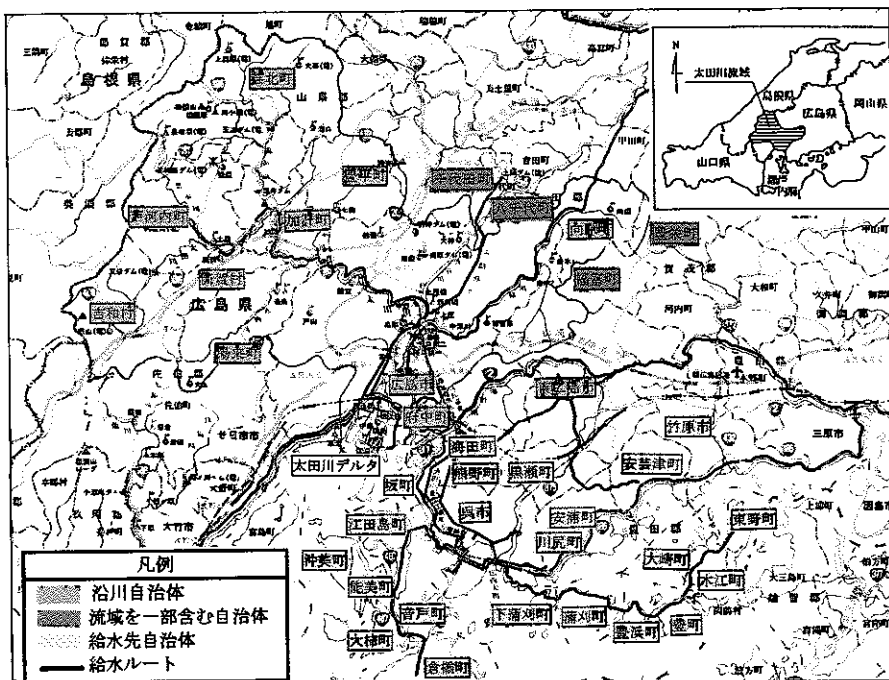


図-1 対象地域

Fig. 1 Subject area (map to be changed)

治水・利水を優先した河川整備やライフスタイルの変化は、川と生活との係わりを薄くし、上流地域では過疎化が問題となっている。

1992年太田川改修60周年を機に、沿川11市町村の首長で組織された太田川サミットが発足し、太田川的环境保全や個性的なまちづくりにむけての取り組みが始まった。また、交流や河川愛護等の任意団体も活発に活動している。

河口デルタでは、1990年“水辺空間の活性化・魅力化”をテーマとした「水の都整備構想」が国、県、市により策定され、“水の都・広島再生”に向けて元安川親水護岸等の整備が進められている。

本構想は、川が流れ出てくる上中流域、すなわち、「川のふるさと」の豊かな資源を活用

し、川と人との関わりを再認識しつつ、太田川を絆とした上下流双方向の交流を活性化し、流域全体の振興につなげていくことを目的とするものである。

## 2. 策定の経過

構想策定の流れを図-2に示す。

第4回太田川サミット(1995年)で「川のふるさと整備構想」の策定が合意された。広島工業大学金丸教授を委員長に、地元有識者および行政関係者からなる「川のふるさと整備構想策定委員会」が設置され、検討が進められてきた。第5回太田川サミットでは、委員会から提案された「太田川流域振興交流会議」の設立をめざす宣言が採択された。

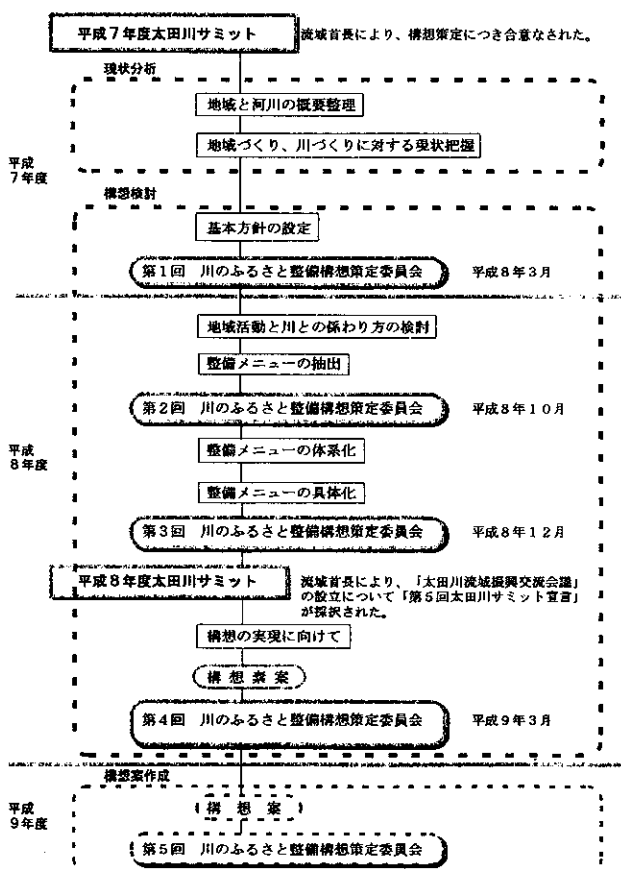


図-2 検討の流れ

Fig. 2 Study flow

### 3. 構想の基本コンセプト

#### 3-1 基本コンセプト

基本コンセプトを次のように設定する。

##### 太田川を通じた

##### 上下流双方向の交流活性化

##### と地域振興、ひとつづくり

#### 3-2 キャッチフレーズとテーマ

基本コンセプトを展開するにあたり、次のキャッチフレーズと4つのテーマを設定する。

##### 太田川を絆とする共生に向けて

自然：自然との対話

文化：文化への探訪

交流：ふれあいの場づくり

情報：流域情報の受発信

##### 【自然：自然との対話】

源流の森と海を繋ぐ動脈である太田川と流域の自然の素晴らしさや威力を体感し、感性を育む。

##### 【文化：文化への探訪】

太田川と深く係わりながら育まれた、地域の歴史・文化・伝統を探訪する。

##### 【交流：ふれあいの場づくり】

上下流双方向の交流を多様な形で展開できるふれあいの場をつくる。

##### 【情報：流域情報の受発信】

流域内の様々な情報を受発信するための利用しやすいシステムを構築し、流域での活動を支援する。

#### 3-3 3つの視点

基本コンセプトのキーワードである「交流」「地域振興」「人づくり」を行っていくには、ハード事業だけではなく、人々の意識を呼び起こすソフト事業が必要となってくる。整備メニューへ展開するにあたって、次の3つの視点を設定する。(図-3参照)

##### 【育成面】

・「川のふるさと」について考え、交流・地域連携を取りまとめる組織と人をつくる。

##### 【情報面】

・情報受発信の拠点を創る。  
・「川のふるさと」をわかりやすく知らせる。  
・埋没している新たな資源を発掘する。

##### 【行動面】

・流域の資源を有効に活用し、「川のふるさと」を体験、発見できる場をつくる。  
・活動の場のネットワーク化。

### 4. 地域活動と川との係わり方の検討

#### 4-1 流域の資源

春には山菜やキシツツジ、うの花、ハナシヨウブが咲き乱れ、夏の夜はホタル、秋には紅葉に染まり冬はスキー、温泉と四季それぞれに自然を満喫できる。舟運が盛んな時代に形成された多くの集落では、それぞれに歴史ある神社や土木遺構、伝統的な神楽等が受け継がれている。川沿いにはJR可部線やJR芸備線がのんびり走っている。

「川のふるさと」に広がるこれらの優れた資質は、流域が共有する貴重な財産と考えることができる。人々が気楽に訪れ楽しめるレクリエーションの場、子供たちが学び感性を育む場、上下流双方向の交流・交歓の場として、これらは大いに活用できるものである。

#### 4-2 整備メニューの抽出

##### (1) 流域の資源活用の考え方

地域を活性化するためには、現在行われている活動を充実させるとともに、新たな活動を輩出することが重要である。流域の資源を活用した「活動」を具体的に考え、前述の3つの視点に照らしてそれらを支援する環境をつくる必要がある。

##### (2) 流域の資源を活用した活動

「活動」の具体例とその効用、地元の役割を表-1にまとめた。

表-1 活動の具体例

Table 1 Concrete examples of activities

テーマ	項目	内容	効用	地元への役割(地元への益)
自然：自然との対話	天体に親しむ	空気がきれいな上流地域で星を見る	親子、家族で天体に親しむ	・星の見えやすい環境づくり ・地元商店利用増による経済効果
	生息生物に親しむ (エコツアー)	自然観察会、バードウォッチング、森林散策 (水辺の生物、植物を探索する) カワガエル探検会 ホタルの鑑賞会、花の鑑賞・名所づくり サンキヤスの遊上を観察する	生息生物について学習する 貴重種の生態について学習する	・生息環境の保全 ・ガイド、指導に対する意識向上 ・豊かな自然利用機会 ・地元商店利用増による経済効果
	地形・地質を楽しむ	流域の地形・地質を観察する・知る	地学について学習する 河川と地形との関係について学習する	・地形地質の保全、案内 ・案内人等雇用機会の創出
	アウトドアライフを楽しむ	川沿いでキャンプ、オートキャンプをする 川沿いでサイクリングをする カヌー、筏で川遊びをする	遊びを通して川の魅力を体感する 健康増進につながる	・現地調達食材のPR、販売 ・地元商店利用増による経済効果
	流域の温泉を楽しむ	温泉巡り、転地療養	リフレッシュ効果と健康増進 歴史を学ぶこともできる	・多様な滞在の楽しさを紹介する ・繰り返し利用による経済効果
	川そのものに親しむ	川で泳ぐ、水遊び、釣り、 水辺で何もせず過ごす	遊びを通して川の魅力を体感する 自然と向かい合える、リフレッシュ効果	・とっておきの遊び方の継承 ・繰り返し利用による経済効果
文化：文化への探訪	流域の歴史に親しむ	流域の神社・仏閣の探訪 舟遊に係わる歴史的遺構(渡し等)の探訪	流域の歴史を学ぶ 舟遊の歴史を学ぶ	・歴史的遺構等の保存、活用 ・歴史を介しての交流、相互認識
	流域の文化に親しむ	地域のイベント、祭(神楽、火祭、物産展等)に出かける 郷土料理を味わう	流域の文化・風土を学ぶ 地域の人と交流する	・文化伝承、人材育成、地域特産品の販売 ・祭や料理を介しての交流、相互認識
	伝統文化を楽しむ	伝統漁法や神楽を楽しむ	流域の伝統文化を学ぶ 地域の人と交流する	・伝統文化伝承、人材育成 ・伝統文化を介しての交流、相互認識
交流：ふれあいの場づくり	生活を体験する	農林業、炭焼き、伝統漁法を体験する ホームステイ	地域の生活を体験する 地域の人と交流する	・体験希望者の受入れ、指導 ・都市との交流、相互認識
	太田川沿いのJRの利活用	イベント列車(学習、お座敷列車)へ乗車 無人駅を拠点とした「テイクアウト」、スタンプラリー 自転車乗り込み可能な列車利用の「サイクリング」、お宝	流域の自然、文化を学ぶ 地域の人と交流する 子供たちだけの活動範囲が広がる	・現地調達食材のPR、販売 ・JR可部線の活性化の確立 ・JR利用増による経済効果
	リバーウォーク	河口から上流へ川沿いに歩く	川沿いに流域の歴史・文化を体験する 川沿いに地域の人と交流する	・来訪者を迎える気持ちと楽しむ心 ・沿川商店利用増による経済効果
	モリウォーク	源流の里地域相互を川から川へ、森を巡り歩く	流域の森の歴史・文化を体験する 流域の森の地域の人と交流する	・森の活動の多様な楽しさを紹介する ・経由集落利用増による経済効果
	手づくり〇〇体験	地元の人やお年寄りを先生にし、遊具、工作、 食べ物などの手づくり体験をする。	上下流双方向のコミュニケーション 世代を超えたコミュニケーション	・体験指導者の発掘、指導 ・都市との交流、相互認識、人材活用
	川辺のたまり場で憩う	談話等をして憩う	川への自然な親しみの醸成 世代を超えたコミュニケーション、リフレッシュ	・場の清掃等 ・さりげない憩いの場での交流
	情報：流域情報の受発信	各種情報誌の発行	各種情報マップによる流域のPR(好きです太 田川、瀬と淵マップ、発見マップ、可部線マップ等) 治水・利水について学ぶ	上下流双方向のコミュニケーション 学習機会
太田川ホームページの開設		ホームページの開設による一般への情報受発信 モノバンク	上下流双方向のコミュニケーション 学習機会	・地域の面白さを積極的に発掘、PR ・都市との交流、相互認識
人材バンクの開設		川やその地域に詳しいお年寄りや専門家を登録 インストラクターの養成	人材の発掘 川づくりへの企画への利用	・地域の人材を積極的に発掘、育成 ・都市との交流、相互認識、人材活用

(3) 整備メニューと体系化

「活動」を支援する環境づくりとして考えられるメニューとその体系を表-2に示す。

- ①水と緑のネットワーク
- ②リバーステーション
- ③太田川流域振興交流会議の設立

を“基幹的整備”として位置づけ、これらを

補完する形で繋ぐ“補完的整備”を地域での具体的な展開を育む拠点としていく。

4-3 施策の体系と資源活用のイメージ

これまでの検討結果を施策の方向性としてまとめ、その体系を図-3に、「川のふるさと」活用のイメージを図-4に示す。

表-2 整備メニューと体系  
Table 2 Improvement menu and system

【基盤整備】	
【基幹的整備】	【補完的整備】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">水と緑のネットワーク</p> </div> <p>□流域生態ネットワーク</p> <p>川を介して山から海までを有機的に結ぶ（水質浄化、生態系の回復、魚道の整備、広葉樹の植栽など）</p> <p>□リバーウォーク</p> <p>流域相互を川沿いに上流から下流まで、川を歩いたりサイクリングしたりする（既存の道や河川敷を活用）</p> <p>□モリウォーク</p> <p>源流の里地相互を、森を介して横断的に結ぶ（既存の林道や歩道を活用）</p>	<p>○水辺の学校整備 ・沿川の小学校と連携した河川内の自然生態保全、学習、育成の場づくり。</p> <p>○森の学校整備 ・山間の小学校と連携した森の自然生態保全、学習、育成の場づくり。</p> <p>○川の一里塚整備（リバーステーションの項参照）</p> <p>○まほろば医療福祉と連携した休憩・健康増進の場づくり（社会的弱者に配慮）</p> <p>○水辺のテラス整備 ・川へのアクセスと親水広場づくり。</p> <p>○JRの活用 ・自転車と一緒に乗り込める客車運行。 ・無人駅のサイクリングステーション化。</p> <p>○森の一里塚整備 ・流域内の相対的な位置が分かるような案内の場づくり。 ・リバーウォークとの結節点には必ず設ける。 ・広葉樹の森等へのアクセス部には必ず設ける。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">リバーステーション</p> </div> <p>流域及び広島デルタ近くにおける、流域の情報発信拠点として整備する。</p> <p>□上流リバーステーション</p> <p>□下流リバーステーション</p> <p>例) 加計町のワークステーションの活用（上流リバーステーション）</p>	<p>○川の一里塚整備 ・流域内の相対的な位置が分かるような案内の場づくり。 ・川の土木遺産の発掘・調査、解説の設置。</p> <p>○水辺プラザ ・中規模リバーステーションとしての総合的な水辺広場。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">「太田川流域振興交流会議」</p> </div> <p>太田川流域の自然と人と地域を考慮、調査研究、意識啓発、交流活動の推進を図る。</p>	<p>○太田川ホームページの開設。</p> <p>○太田川を紹介した冊子やマップ等の活用、販売、作成</p> <p>・一般の人の目に触れるようキオスクや店頭等で販売するとともに、魅力的な冊子広報等の作成を行う。</p> <p>○人材バンク</p> <p>○太田川利用のルールづくり</p>

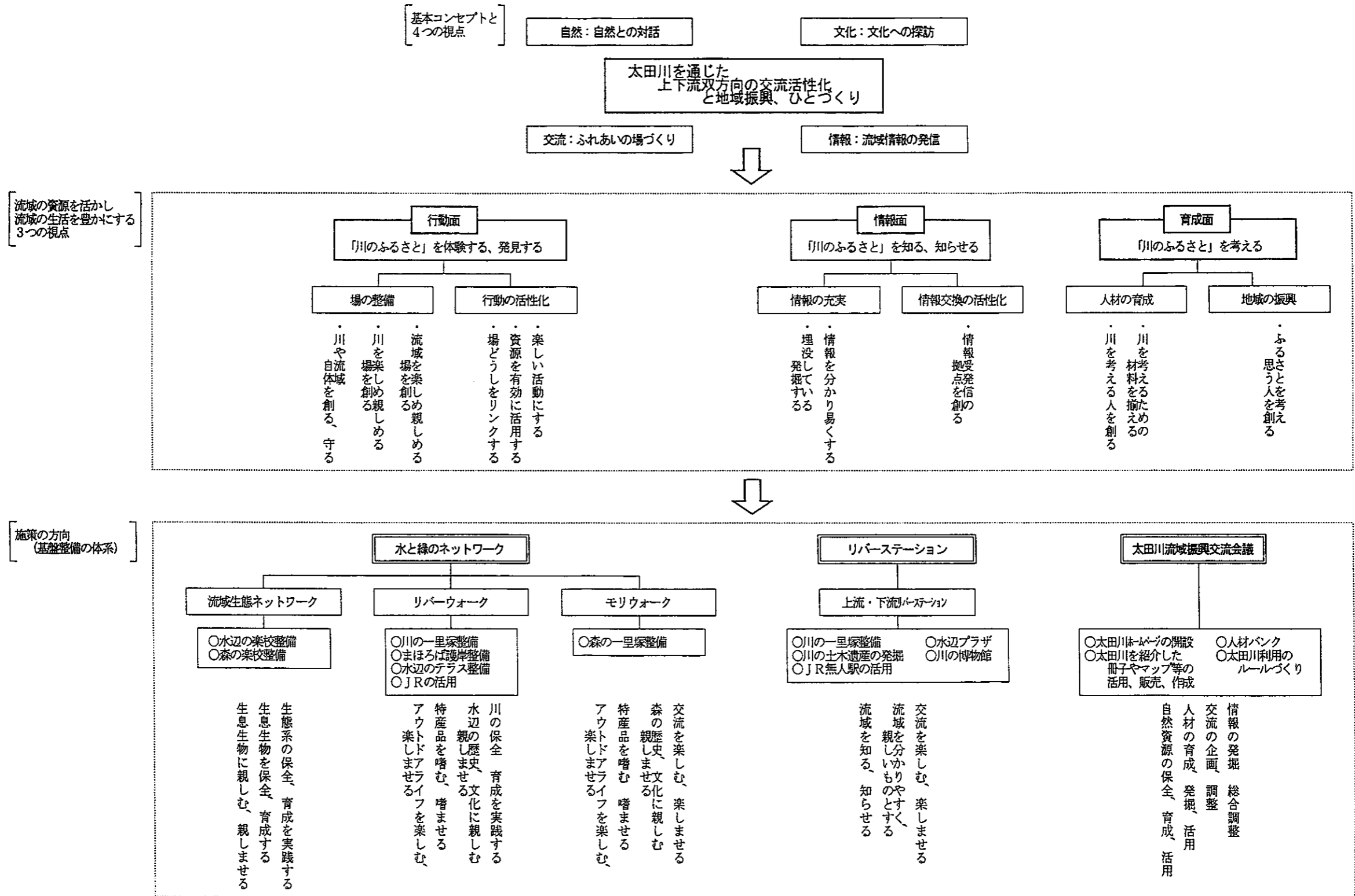
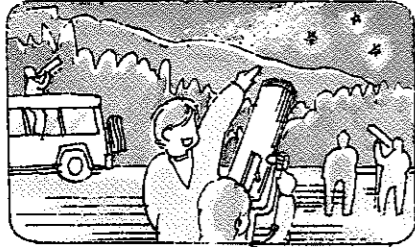


図-3 施策の体系図  
Fig. 3 System of measures

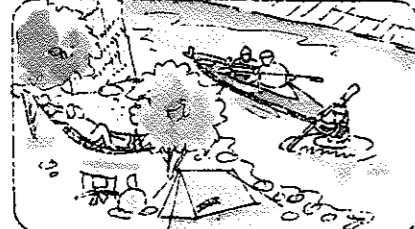
自然：自然との対話



天体に親しむ



生態生物に親しむ エコツアー 地形・地質を観察する

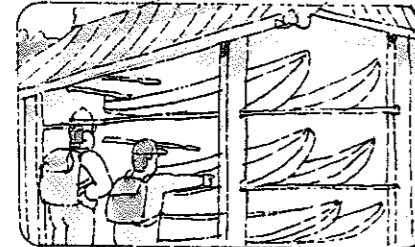


アウトドアを楽しむ 川そのものを楽しむ



流域の温泉を楽しむ

文化：文化への探訪

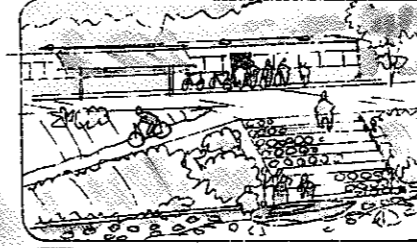


流域の歴史に親しむ 流域文化に親しむ 伝統文化を楽しむ

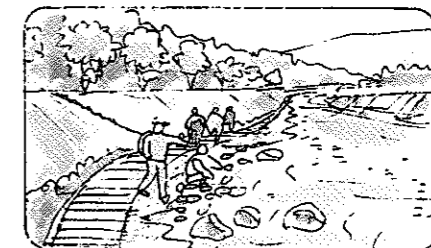
交流：ふれあいの場づくり



生活を体験する 手作りの体験



太田川沿いJRの利用

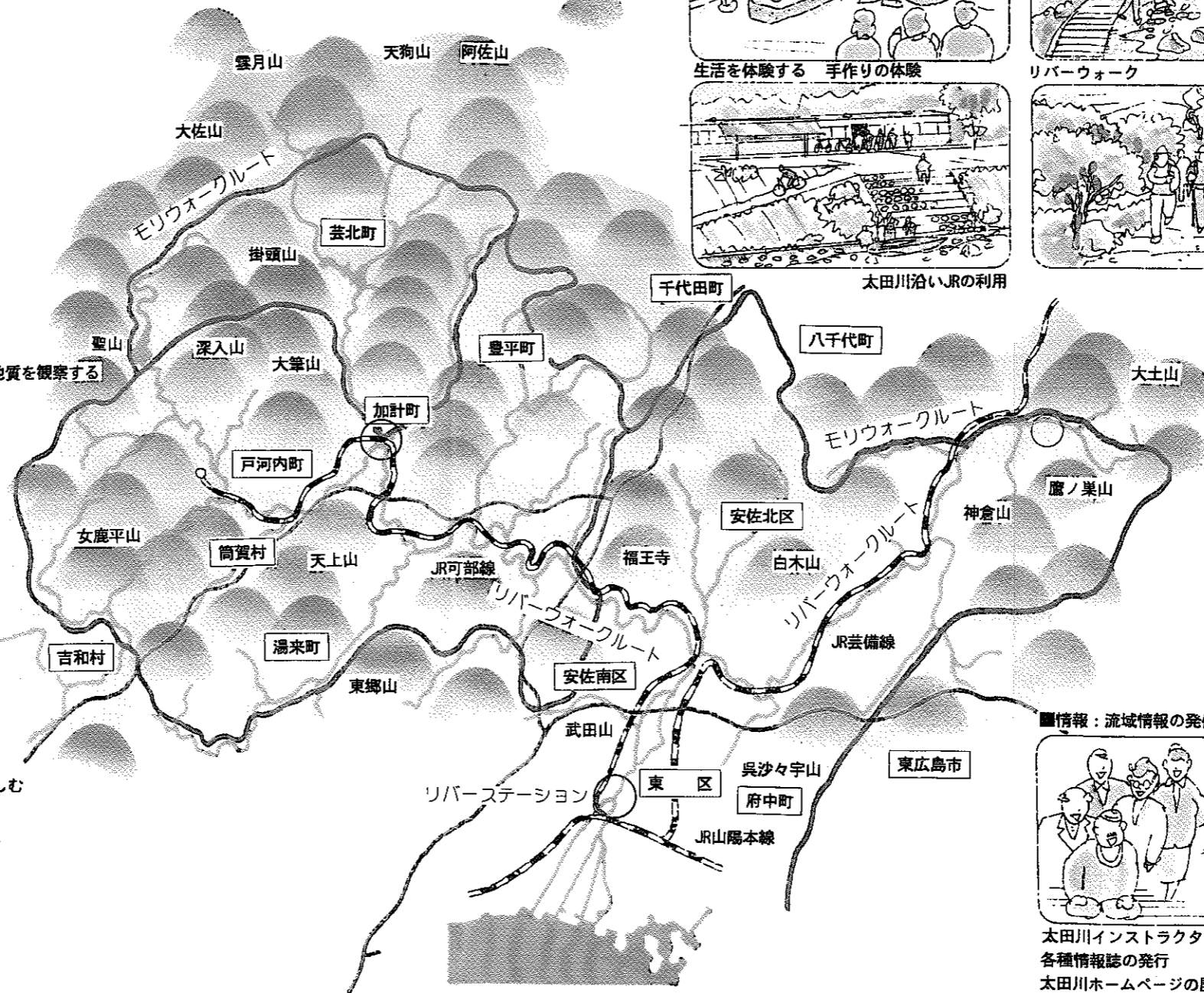


リバーウォーク

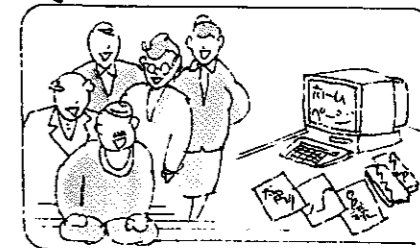
川の溜まり場で遊ぶ



モリウォーク



情報：流域情報の発信



太田川インストラクターの養成  
各種情報誌の発行  
太田川ホームページの開設  
太田川人材バンクの開設

図-4 川のふるさと整備構想全体活用のイメージ

Fig. 4 General image of use of "River's Furusato" Improvement Concept

## 5. 構想の実現に向けて

### 5-1 実現に向けての考え方

本構想は、太田川を絆とした地域振興に向けての基本的な考え方と施策の方向性を提示したものである。

構想を実現していくためには、行政組織、各種団体、民間企業、任意団体、地元生活者、来訪利用者等が、共通の努力目標として「川のふるさと整備構想」の基本理念をもとに取り組み、有機的に連携していくこと、流域の住民の積極的な参画が重要である。そのためには、今後、

- (1) 部門ごとの取り組み
- (2) 「太田川流域振興交流会議」の設立
- (3) 行動の実践

が必要となってくる。

また、これらの取り組みを進めるなかで、構想をフォローアップしていくことが重要となる。

### 5-2 実現に向けての取り組み

#### (1) 部門ごとの取り組み

各部門ごとの取り組みとして考えられるものを以下に示す。

- ① 行政組織
  - ・建設系部署：施策の事業化
  - ・企画系部署：イベント企画、特産品開発
- ② 各種団体
  - ・農林水産業協同組合：特産品開発、産業体験学習の促進、材料供給
  - ・第3セクター：観光への展開
- ③ 民間企業
  - ・JR：無人駅舎の活用協力、サイクル列車等の運行
  - ・その他：一里塚としてのサービス提供等
- ④ 任意団体
  - ・地域づくり交流会：イベント企画
  - ・河川愛護団体等：流域振興交流会議に参加、情報提供
- ⑤ 地元生活者：人材バンク・モノバンクへの登録、情報提供、イベントへ参加・協力

- ⑥ 来訪利用者：イベントへ参加・協力、材料、地元調達

#### (2) 流域振興交流会議の設立

各部門の意見や企画を調整し取りまとめ、構想の基本理念を広く流域の住民に理解してもらうための組織として「流域振興交流会議」を設立する。以下に活動内容として考えられるものをあげる。

- ① 交流会、河川愛護団体への支援
  - ・活動に必要な用具の提供・貸与
  - ・活動に必要な資料の提供
  - ・人的支援(人材バンク確立、専門家の支援)
  - ・経済的支援(基金設立、研究費補助)
- ② 情報提供・情報発信
  - ・行政が出版した太田川に関する書籍やパンフレット等の提供、一般販売
  - ・マスメディアを活用した情報提供
  - ・インターネットの活用(ホームページ作成、アクセス機器購入の補助)
  - ・川に関わる施策等への意見や提案の検討と調整(河川愛護団体、地元生活者、来訪利用者等)
  - ・太田川に関する研究、調査、資料収集
- ③ 人づくり
  - ・イベント開催等による河川愛護の啓発
  - ・地元において活動の指導者を育成
  - ・来訪利用者への啓発
  - ・人材ネットワークの確立と活用

#### (3) 行動計画(案)

本構想の基本的な考え方である、「川のふるさと」における活動の支援は、すぐにでも取り掛かれることであり、具体的な行動の積み重ねが啓発につながるものと考えられる。平成9年度における行動計画(案)を以下に示す。

#### ① 既存の活動等への積極的支援

太田川流域で活動している河川愛護団体への支援を行うために、各団体や一般の河川利用者の意見および要望を把握する。また、既



に行われている支援を継続し、充実を図る。検討中の滝山川ふるさとの川整備計画への支援を行う。

② 廃校・余裕教室の活用

上流域の廃校や余裕教室を交流拠点、憩いや学習の場として活用する。

4-3 構想のフォローアップ

本構想のフォローアップ体制を図-5に示す。

「太田川流域振興交流会議」が主体となって各部門の行動計画や意見の調整、情報の受発

信を行い、「太田川サミット」および「川のふるさと整備構想策定委員会」と連携していく。

5. おわりに

地域が活性化するためには、地元自治体や地元生活者が積極的に参加し、連携することが重要である。本構想は、現在素案の段階であり、委員会で承認された後、構想(案)として公表し、広く地元住民や市民の意見を募り「川のふるさと整備構想」としてとりまとめる予定である。

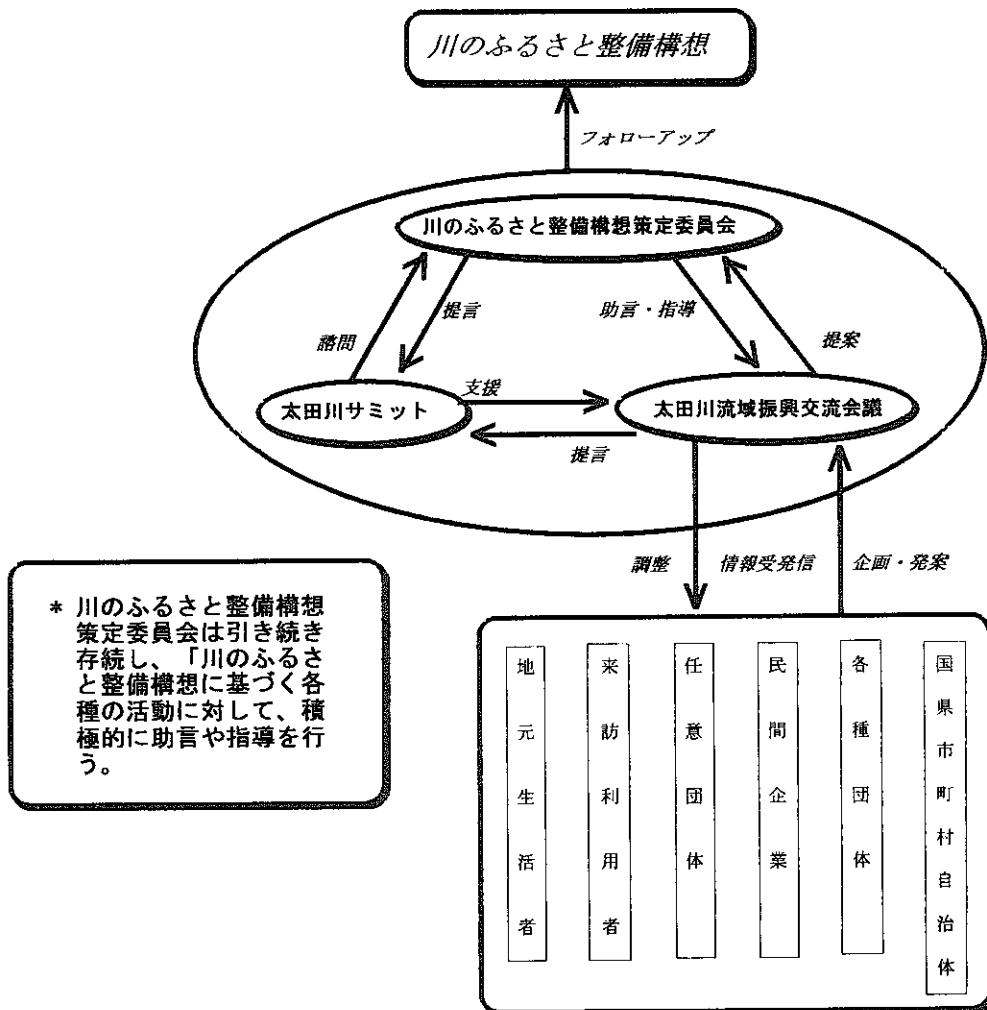


図-5 川のふるさとと整備構想フォローアップの体系

Fig. 5 "River's Furusato" Improvement Concept Follow-up system